

日本原電前抗議行動プログラム

～絶対に老朽原発を再稼働させてはいけない～

- 17:00 開始 開会のあいさつ：山田和秋(司会、首都圏連絡会)
 17:01 主催者スピーチ：柳田真(首都圏連絡会)
 17:06 脱原発スピーチ：佐藤眞一さん(いのちをつなぐ会)
 ～方針転換しなければいけない電力をなぜ使うのか～
 17:16 参加者スピーチ：中井はるみさん(忘れまい3.11! 反戦・反原発の会/千葉)
 17:21 申入書受け渡し：志田文広(首都圏連絡会)
 17:26 申入書受け渡し：けしば誠一さん(反原発自治体議員・市民連盟)
 ～¥100カンパコール～
 17:32 ～♪日本原電前音楽アクションメドレー2022.12.7～
 日本原電6人衆(ジョニー・H、坂本達夫、生田まんじ、マールハート・バンド、右田春夫)による日本原電抗議ソング4曲のメドレー演奏
 17:42 行動提起：志田文広(首都圏連絡会)
 17:44 シュプレヒ・コール：中村泰子(首都圏連絡会)
 17:45 閉会のことば：山田和秋(司会、首都圏連絡会)
 17:46 終了(予定)

この後は
東電前だ!



みんな、この後は東電前に
行って抗議するのだ!



～このあと18:30からは東京電力本店前にて抗議行動です!～

とめよう!東海第二原発首都圏連絡会の行動予定

- 来年 1月11日(水) 第54回日本原電前抗議行動(その後、東電前行動)
 1月下旬 'とめよう!東海第二原発首都圏連絡会' 集中討議
 2月1日(水) 第55回日本原電前抗議行動(その後、東電前行動)
 3月上旬 一斉行動・第7波(第6波の行動数は約70行動)

避難計画策定過程について

東海第二原発周辺14市町村及びその受け入れ先自治体の多くにおいて避難計画が策定すらできていませんが、その策定過程について、「原発再稼働」日野康介 著 集英社新書 から一部抜粋します。
 ・避難先の松戸市は、2016年8月に「受け入れ人数は2,700人が限度だ」と千葉県に回答したが、その半年後に千葉県から14,400人の受け入れを要望される。
 ・茨城県の2018年10月の調査において受け入れ先の坂東市は、避難所の総合文化ホール「ベルフォーレ」の収容人数を、避難者が横になれるスペースは楽屋や和室などわずかしかなのに3422人としていた。
 ・同上の調査で、潮来市の受け入れ人数が市の防災計画では収容人数が183人となっているのに約その9倍にあたる1700人としてあった。

♪1 原電前の闘志 by 右田春夫 元歌 (Dust in the wind)

忘れろというのか 血塗られたもの歴史よ 原発事故
 廃炉を求める者は 死ぬというのか 命守り戦う勇気など持つなど
 血塗られたもの歴史よ 原発事故
 朝日が登り夕日が沈む海よ 美しき島々や偉大な山河の陸よ
 我ら小さく弱くとも 諦めはしない 再び立ち上がるのだ その土を握りしめて
 再び立ち上がるのだ その土を握りしめて オーーーーー



♪2 君と僕の未来 by マールハート・バンド

青い空と緑の大地と青い海を守れ!!
 父が採った美味しい魚を 放射能汚染から守れ
 東海第二はいらない! いらない! ふるさとを守れ 守れ!!
 東海第二はいらない! いらない! ふるさとを守れ 守れ!!
 青い空と緑の大地と青い海を守れ
 君と僕の未来守れ!! 子ども命を守れ!!
 東海第二はいらない! いらない! ふるさとを守れ 守れ!!
 東海第二はいらない! いらない! ふるさとを守れ!! 守れ!! ふるさとを守れ!! 守れ!!

♪3 今になってガタガタ言うな総理の岸田 by ジョニーH 元歌 (Please don't talk about me when I'm gone)

今になってガタガタ言うんじゃないよ 総理の岸田
 国民騙してごたくを並べてさ
 テロ対策できてねえのによ 説明なしで再稼働かよ
 ミサイル飛んできた核爆発で 避難訓練なんてお笑いサル芝居
 電気料金値下げは特殊詐欺 補助金は全て日本原電や東電に回っちゃうぜ



♪4 海岸の舟歌 日本原電前short ver. by 生田まんじ

声ば出されん アンコウ達が どんだけ辛かか 悔しかや
 死にゆく海ば 目の前にして 恥ずかしゅうなかとか? わい達は?
 いつでん言うこと聞かち 思うなよ 太っか波の来よるとぞ
 えんやら えんやら えんやら えんやほい ×2
 泣き笑いて歌え 泥ん酒ば飲もうで
 えんやら えんやら 今夜 東海第二ば 止めに行こう
 腹の底まで 我慢ば重ね 海の辛さは飲み込んで
 どんだけ待ったや 満月の夜 風の止んだら 「出発ぞ!」



※下線・斜字はみんなで歌いましょう!

申入書

～避難計画は‘絵にかいた餅’ですらありません～

私たちは今まで貴社への申し入れにおいて、東海第二原発周辺 30km 圏内における広域避難計画の不備について何度も申し上げてきましたが、本日はその不備について、「原発再稼働」日野行介 著 集英社新書 を基にして具体的に明言し、それに対する貴社の見解をお聞きしたいと思います。尚、その不備は多数ありとてもこの紙幅に収まるものではないので、本日はその中の2つだけ述べさせて頂くということと、この日野行介さんは、4月6日に行われたこの原発前抗議行動の様子を写した写真をこの著作の、「第2部 避難計画編」の項の最初のページに使われていることを述べさせていただきます。

一つは、避難の受け入れ先である千葉県松戸市の避難計画策定についてです。松戸市は水戸市からの避難者を受け入れることになっていて今まで千葉県と水戸市からその避難計画の策定を求められてきました。

最初に求められたのは2015年6月1日に千葉県文化センターで開かれた市町村向けの説明会の後に、千葉県からメールで、避難計画の数値等を入力するエクセルのフォーマットが松戸市に送られた時です。そのフォーマットに松戸市は入力し、4/㎡で算定して2,700人の受け入れが可能と返信しました。

次に求められたのは2016年8月18日、千葉県庁で再び説明会が行われた時で、この際に千葉県は7,500人の受け入れを松戸市に要望しました。それに対し松戸市はやはり、「2,700人が限度だ」と回答しました。

3度目に求められたのは2017年2月17日で、避難所の収容人数を尋ねる照会文が再び松戸市に届けられました。このとき千葉県は、14,420人の避難者受け入れを要望しました。そしてこの時も松戸市は、それは「難しい」と回答しました。

4度目に求められたのは、同年6月21日で、その避難者の施設における収容人数を2/㎡で算定するよう千葉県からメールで要望されました。

そして5度目に求められたのは、同年7月21日で、東葛6市の担当者が集められた会議の場で、水戸市の担当者から16,000人の受け入れを松戸市は要望されました。

そして今現在、松戸市の避難計画は未策定です。

2つ目は、茨城県の避難元であるひたちなか市の避難計画についてです。上述の著作の著者の日野行介さんはひたちなか市への取材において、ひたちなか市が最初に算定した避難先の受け入れ人数が不可能なもので、算定し直したことを聞き出しましたが、その後取材に応じたひたちなか市の生活安全課の課長さんから以下のことを吐露されました。「(2018年の)再調査で変わったからといって全部ぐちゃぐちゃにするというわけにはいかないので、これまで、(市民に)説明してきた内容で調整するしかない。説明しきれない部分があるのも事実ですが、『実は避難所が不足しています』とは言いにくい」と吐露されました。このひたちなか市の避難計画も未だ未策定です。

以上松戸市とひたちなか市の避難計画策定における不備を述べさせて頂きましたが他の市町村においても類似した不備が多数あります。これが14市町村における避難計画策定の実態なのです。避難者数の辻褃合わせさえできていなければ確たる避難所も探していないのです。計画として絵に描けてすらないのです。

そして今年2月1日に行われた東海村議会・原子力問題調査特別委員会において、貴社が理事の1人を務める東海村・商工会が出した‘東海第二原発周辺自治体へ避難計画を早くつくらせる’請願が強行採決されました。つまり、上記のように地方自治体が、策定がとうてい困難な避難計画を強引に14市町村につくらせようと迫り、一方で貴社が理事の1人を務める東海村・商工会も避難計画を早くつくらせようと東海村議会で迫っているのです。

この一連しているかのような避難計画策定をめぐる状況について、貴社の見解をお聞かせ下さい。

とめよう！東海第二原発首都圏連絡会

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-1-1 高橋セーフビル 1F たんぼ舎気付

電話：070-6650-5549 FAX：03-3238-0797

要請書

原電は東海第二原発再稼働を断念し廃炉に向かうことを求めます

日本原子力発電株式会社 取締役社長 村松衛様

今年1年間で、貴社日本原子力発電株式会社（以下原電）が準備している東海第二原発再稼働の判断に係る重大事態が、次々と起こりました。

第一に、東海第二原発が立地する茨城県を震源とする地震が頻発したことです。以前も紹介したように、防災科学技術研究所の藤原広行部門長が、「茨城県は地下に太平洋プレートとフィリピン海プレートという2つのプレートが沈み込んでいる地域であり、世界的に見ても珍しい地震多発地域を構成しています。このため、茨城県は日本全国の中でも、地震の発生の頻度がいちばん高い地域の1つといえる。」と述べています。原発立地としては危険であり、不相当だと改めて判明しました。

第二に、東海第二原発の老朽化による危険性が専門家から指摘されたことです。今年、地元の科学者・技術者から東海第二原発の心臓部の圧力容器の安全性に疑いのあることが質問書として提出され、県も審査を始めています。44年を超える東海第二原発の老朽化と、3.11福島第一原発と同時に被災し損傷箇所が残る脆弱性から、東海第二原発は再稼働すべきではありません。

第三に、昨年3月水戸地裁が避難計画の不備を理由に東海第二原発の差し止めを命じて以降、避難計画策定が求められる14市町村のうち、一応策定済みとされているのは現在も5市町だけです。また、今年10月18日東海村で実施された避難訓練で、村民3万8千人余が事故時に車で一斉に避難することは不可能であると判明しました。

第四に、ウクライナで原子力発電所が砲撃され、一時電源が破壊されて危険な状況になりました。環境経済研究所の上岡直見所長が、「東海再処理施設に攻撃が行われた際の被害状況を試算し、廃液が20%漏出した場合には死者40万人、関東一円に大きな被害が起きる」とリスクを警鐘しました。稼働中の東海第二原発が攻撃されたらこの何倍もの被害が予想されます。政府が敵基地攻撃能力を保持することを決めた今、原発は自国に向けられた原爆と同じ機能を果たします。この状況で原発稼働は無謀な試みです。

以上の理由から改めて、原電は東海第二原発の再稼働を断念し、廃炉に向かうことを要請します。

反原発自治体議員・市民連盟

(共同代表) 佐藤英之岩内町議会議員・野口英一郎鹿児島市議会議員

福士敬子元東京都議会議員・武笠紀子元松戸市議会議員

東京都杉並区高井戸3-36-14-301 fax03-5936-0311

問い合わせ：090-5497-4222 アドレス：seiichi@keshiba-shinjo.net